

言寸(5)

建礼門院 平清盛の次女で高... 位入身を極めた女人。寿永四年... 源平の戦に我子安德天皇と共に壇の浦の海中に投じたが源氏に救われ落北大原の寂光院に入って真如寛と号したことは平家物語の「大原御幸」に有名な悲劇である。因みに現在の大原女の姿は建礼門院の侍女阿波の内侍が山へ柴刈りに行った時の姿を模して後世に伝ったものという。

よもやま (敬称略)

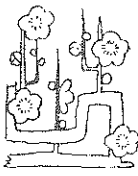
○水藤錦襪演奏会 十一月十四日昼夜東京日本橋才一証券ホール(主催同女史) 羽衣!漁夫水藤五郎、天女水藤錦襪、勿来の関!竹之内康夫、黒田武士!古川芳江、松井きみえ、絃桜水、桜華。立方箕村桜州西行と銀の猫!西村錦風、青葉の笛!大島貞次、吟詠!安田吼天、戸室吼雪、賤が伏屋!小沢錦襪、水藤五郎、絃錦襪、城山!藤波白林、絃桜華、川中島!加藤錦陽、弁内侍!新部桜水、井伊大老!小島櫻舟、うつば娘!箕村桜州、絃桜華、大高源吾!村木桜柳、桂!水藤錦襪、姉妹逢坂山!弟蟬丸鈴木密水、姉逆髪水藤錦襪、吟詠!藤波和水、津谷桜佳、丸山隆楓、児島高德!剣

大石桑菊、吟松本真翠、五条橋!林環豊盛綱先!水藤五郎、絃桜水、迷語もどき!ギンシユ、ジョーヂ、西行桜!平野鉦水須磨の教盛!郁錦穂、吟詠!渡辺萩草、芹沢百華、鏡夕淵!新部桜水、笛木村雅趣雨、那部!水藤錦襪、高音吾妻江風、胡弓木村雅趣雨、立方中村冠子、勤進!高橋石田鶴水、弁慶!野崎晴風、地山下晴楓、絃錦襪外、静!藤波桜華、新部桜水、高音吾妻江風、絃錦穂、雅趣雨、錦穂

あ 新春を迎えて御慶を申述べると共に紙友各位の御慶年をお祝い申し上げます。年頭の辞でガラにもなく天下園家を論じるようなことを云って些か面映ゆいが筆者は勿論右翼でも左翼でもなく要するに衣食足って礼節を知るで如何に琵琶が好きでも腹がへっては戦さが出来ぬ醫者の通り先づ健康、そしてその日の暮らして事欠かぬのが先決問題である。併し巻頭に述べた通り世の中の状況は混沌として今年はどう変わるか予断を許さない。心を濟下丹田に据え少々の物ごとには動ぜぬ心構えで琵琶を奏し、斯道の普及発展に突進したい。各地からお寄せ下さった貴重な原稿で本号に載せられなかつた分は次号以降で発表します。御好意深謝。

昭和四十五年一月一日発行(非売品) 編集者 植村 冀 水 発行所 京 絃 社 京都市北区衣笠西馬場町二九 和田才一ビル 二〇一号 〒603 電話(462) 八三二六(461) 二八七六番 内線 二〇一番

誌 綾 京 絃



年頭の辞

主幹 植村 冀 水

才一八七号 京 絃 社

全国琵琶同好の皆さま、明けましてお目出度うございます。本年もどうぞよろしく御願ひ申上げ、併せて琵琶道発展のため御活躍下さいませよう切願ひいたします。

敗戦の混乱期から勇敢に立ち上って茲に二十五年、一億国民の総力奮起によって、今や日本は全世界奇異の製産国、経済国となり、新しい一九七〇年を迎えて旭日昇天の勢いで益々隆盛の一途を辿らんとして居ります。願ひれば昨年は様々な画期的事件がありました。佐藤、ニクソン会談によって、永年に亘り国民挙げて喝望していた沖繩の、七十二年完全本土なみ復帰が決定したことは、何と云っても我等同胞の此の上もない喜びといわなければなりません。又、アポロ十一、十二号月着陸の大快事、全生物未踏の月世界が人類によって征伏され、遠からず又実現するであらう火星開拓の糸口をひらいた事などは、トップ・ニュースとして真っ先に取上げなければならぬと存じます。

纏って国内の現状はどうか。ゲバ棒火炎瓶の大学紛争は一応下火になったとは云え、前途有為の多数男女学生が獄門に繋かれ、或は交通事故による死傷者の果敢の激増で暗鬱たる世相に拍車をかけ、物価は益々高騰して止まるどころを知らずに庶民を泣かせるなど、国の繁栄とは対蹠的に新聞の三面記事を賑わせています。

然し本年は、昨歳末に行われた総選挙による人心一新、六月安保条約の改正問題や、待望の万国博覧会が陽春三月開会されるなど、喜憂交々の年となりました。茲で我々琵琶人は超然として世論に惑わされる事なく琵琶道一片党となり、その興隆発展に邁進したい。そうして現世のもろもの汚れを掃いて、清らかな園遊りに御面援助の一役を買って出たいと思ひます。どうか諸師の奮起を切にお願い致したく、年頭にあたり些か所信を述べて御挨拶いたします。

「平家物語」の物語(三二) 腰越一切々と兄へ沢明書

金洗沢に關すえて、大臣殿請け取り奉り、判官をば腰越へ追っ回さる。判官「こは、されど何事ぞや... (中略) 兎參をだにとげずして、追ひ上せらるる事、謝する所を知らず」とつぶやかれども甲斐ぞ無き。(中略) 判官泣く泣く一道の状を書いて、広元のもとへつかはす...

元暦二年(一一八五年)五月、平家を鎮圧した義経は堂々の鎌倉入りをまぶたに面いて東へ下った。が、鎌倉の西門腰越宿で一行の足は釘づけ。「これより先へ進むこと罷りならん」、頼朝の命令であった。今か今かと沙汰を待つ義経。月は明けて六月、宿所の満福寺は耳の痛くなるような静けさである。暮れなづむ境内にジッと天を仰ぐ義経の表情には憂色が一段と深い。源氏の到来ではないかお前が頼朝と反目して何とする、只兄に従うのだ、家門を繁栄させようぞ...。しかし父上、鎌倉殿はこの九郎を...。義経の胸中をかすめたものは亡父義朝の声であった。その夜の一房は更けて尚明かぬ。筆を握ったまま不動の義経を灯が白々と照らし出すその横顔には一の谷、壇の浦の漂々しさは影もない。得意の絶頂から、いっせに失意へ転

落した若者の苦惱だけが浮んでいた。一字書いては壁を睨み一行書いてはタメ息。世に名高い慶越状。切々たる思いで二心の無いことを述べ、兄に諒解を求めた釈明書はこうして書かれた。

義経と頼朝の対立はこれより一年半も前、元暦元年二月の一の谷合戦のあとに芽生えている。それは義経の宮廷への接近が鎌倉の兄に疑惑を抱かせた。その後義経は検非違使、左衛門少尉に任官、更に従五位下に叙せられ院内の昇殿も許されるといふ異例の栄達をした。御家人の賞罰の権限を独占し、武士団の統制強化を急務としていた頼朝である。源家の統領として弟の、宮廷人化、に試み切れぬさい疑心を起したのも当然であった。加えて壇の浦の目覚しい活躍が頼朝の警戒心に油を注いだ。「無能な頼朝に比べ何と天晴れな戦振り、今や平家は亡い、恐るべきは九郎だ」、頼朝の情勢分析は続く。「白河関の彼方、平泉には精兵十七万騎がある。この野戦の天才が奥州軍を率いて関東を突いたらどうなる...」

頼朝は既にこの段階で弟義経の抹殺を決心したのではなかったか。冷酷と云わば云え、血なまぐさい天下取りには必須の読みであった。義経は兄の冷たい態度に充分気づいていた。にも拘らず腰越で足止めを食うまで「今度こそ兄上とゆっくり話合おう、壇の浦の勲功にはきつとお褒めの言葉があるだろう」と考えていた。だから鎌倉の一步手前で厚い冷厳な壁にぶち当たった時、彼の自信はガラリと崩れ

落ちた。ここに至って義経も兄の遠謀に薄々気づいた。戦うべきか、否か、満福寺の一ヶ月余、義経の心情を、後世の信長に対する明智光秀に見るような気がする。悩みぬいた末の釈明書である。

この兄弟の命運を分けた因子は何か、古来史家や文学者が追い求めた謎である。兄頼朝には東国武士団の所領確保というハッキリした目標がある。一方、義経は戦略家ではなかった。戦乱鎮まった平時では、最早戦士は消え去るのみ。従者もえたいの知れぬ畿内の僧や武士が殆ど。個人的繋がりや集団で、義経に政権を取らせようという権力意識に欠けていた。この差がそのまま二人の戦略に反映したと考えたい。梶原景時のざん言などもその副産物と見られる。

宗盛らを伴った義経一行が東下りした道筋を逢坂の関趾まで辿ってみた。三条通りを東へ、京津電車に沿って国道一号线を行くと、やがて京都、滋賀の府県境。道が上り坂に上がり、関趾のちよつと手前に月心寺という尼寺がある。この庭にこんこんと湧き出る泉は、平家物語に「関の清水を見給ひて、大臣殿泣く泣くかうぞ詠じ給ひける」とある。八百年前義経一行はここで喉をうるおしたのである。関趾は今交通の難所、西に東に日ねもす軍の撤が絶えない。

狂醉亭漫録 (五十)

古谷 寛水

昭和庚戌歳首、先づ謹んで読者諸賢の御健祥を慶賀する。去る昭和三十九年より断続し乍らも執筆して来た此の随筆も早や七年目を迎えるが未だ予定の十分の一も進まない。兎に角命の続く限り執筆し度いと思ふが、本年七十六歳の老生には心細い限りである。

前号で義士討入当夜の参集場所をうどん屋久兵衛方と称するのは嘘説であると記載したが、多少の誤謬は無いでもない。それは大高源吾が其夜数人の同志と参集の途中、寒さと空腹に堪えかねて此の久兵衛方へ立寄り一杯傾けた事実がある。其折主人が口中で「何のその、何のその」と繰返し独語しているの理由を問うと、当時旅行の冠り付けという俳諧を考えているとの事、大高は子葉と号し当時蕉門十哲の宝井其角の門人で、多少名を知られた俳人であったので、然らば拙者が付けて進ぜよう、左の句を即吟した。

何のその岩をも通す榮の弓
此の句は大高の仇討に対する真意を吐露したものと有名になったため「義人録」「一夕話」「赤穂記」等の諸書が久兵衛方を義士集合の場所として誤り伝えた原因になったが前号記載の「寺坂談」により、是の嘘説たる事は証明される。この序に義士達の風流談

を少々ご紹介する事とする。
一党の副統領吉田忠左衛門は出発に際し左の辞世を詠じた。
君がため思いぞ積る白雪を
散らすな今朝の嶺の松風

室鳩巢の如き大儒でさえ、此の一首を切腹当時の辞世と記し、お負けに嶺の字を誤って春と記している。之も「寺坂談」が証明する。小野寺十内も妻の丹女と共に和歌の造詣が深かったが、討入出発前辞世の一首を討入衣裳の袖に書き付けている。
忘れぬや百に余れる年を経て
事えし世々の君がなさを

問喜兵衛は槍の柄に短冊を結び付けた。
都鳥いざ言はん武士の
恥ある世とは知るや知らずや
伸崎与五郎も風流の士であった。討入直前の行軍中、左の一首を詠んだ。
梓弓香近ければ小手の上の
雪をも花の吹雪とも見ん
木村岡右衛門は陽明学者であり、従って漢学に明るかった。長文の序(省略)と共に左の一絶を記し、兜頭中の裏に収めた。曰く
身寄浮雲滄海東 久慈恩義世塵中
看花対月無窮恨 敢作曉天草木風
大石が日頃帯する小刀は祖父伝承の物であるが、その黒檀鞘に左の聯句を自書していた。
萬山不重君恩重 一髮不輕我命輕

仇討後細川家に御預の日、接待者の熊本侍堀内伝右衛門重勝は、大石の両刀を檢し此句を見「我等文盲にして読め申さず候、但し是

謹	賀	新	年
薩摩琵琶高昇流家元 泉勝院 峰 口 高 昇 〒649-22 和歌山県白浜温泉浜通 白良ヶ丘 電話二三六八番	旭会 大教司 秋 元 旭 農 〒540 大阪市東区法円坂町 法円坂住宅二〇号ノ五 電話(94)六六二七番	清 吟 会 大 井 錦 淀 〒369-12 埼玉県大里郡寄居町玉 淀 電話(81)一七四〇番	株式会社中村鉄工所 総 務 熊 木 秀 司 自宅 埼玉県川越市南通町 一三ノ二 〒350 電話川越(22)四四六一

謹	賀	新	年
一水会名古屋支部副支部長 菅 沼 豊 水 〒466 名古屋市昭和区塩付通一 ノ三五 電話(761)四七〇八番	筑前琵琶日本旭会 大阪中央部旭会々々長 塩 谷 旭 洲 〒535 大阪市旭区大宮西之町八 ノ一九 電話(951)九二九四番	榎 本 芝 水 〒155 東京都世田谷区代沢二ノ 四八ノ三 電話(467)〇八二八番	錦びわ宗家 水 藤 錦 襪 水 藤 五 郎 〒176 東京都練馬区旭町三ノ二 ノ四 電話(93)四四九八番

に書付置く」と堀内閣書に記録している。此の堀内も亦、誠実正直愛すべき侍であった。芝居其他で演ずる吉良邸の隣家旗本土屋主税邸で、其角と大高の出会いが事笑である。討入の翌日土屋主税が公儀に届出た口上書は正確に討入の模様を報じているが、今はその文章に触れる違がない。元来土屋は義士びいきで、討入と同時に内報を受けたので邸の境界に高張提灯を立て運ね、自身は庭前の床几により家臣を指揮して夜明けまで警戒した。此夜土屋邸では歳忘れの句会が催され、同好者の外に蕙門の巨匠其角風雪杉風等も出席し盛大な宴であった。事件後其角が佐竹藩士梅津半右衛門に贈った長文の書簡が後世に伝っている。その主要部分を抄出すると：

「(前略)折から雪面白く降り出し風情手に取るが如く庭中の松杉は雪を頂き雲間の月は晴間を照し風興今は捨て難くして夜はただ更け行くまま最早丑みつ頃となり行き(中略)けはしく門を叩く者兩人、玄關に案内して我等は浅野家の浪人堀部彌兵衛大高源吾にて候今夕御隣家吉良上野介殿屋敷へ押寄せ、亡君年来之遺恨を果さんとて、大石内蔵助始め四十七人門前に相打ちのみ今吉良氏を討果すべき処近隣の御好み武士の情萬一御加勢候はば末代の御不覚と奉存候、願くば門戸を厳重御防、火之元御用心被下候はば忝奉存候と云も果さず立出る(中略)其角幸に爰に在り、生涯の名残を見んとて門前に走り出れば各々吉良家へ忍び入る程に

謹賀新年

宮崎直二

〒154
東京都世田谷区太子堂
二丁目二番八号
電話(414)六五七八番

田中歴水
田中愛水

〒930
富山市太田口通一ノ六
電話代表(25)三七四一

錦心流琵琶一水会富山支部
北陸琵琶同好会本部

我雪と思へば軽し笠の上と高々と一声呼り、門戸を閉て内を守り堀越に提灯を立て始終を窺うに其哀れき骨身にしみ入、女の叫び童子の泣声風颯々と吹きさそう暁天に至り候へば本懐既に達したりとて、大石主税大高源吾楯便に謝儀を述べたる華武士の誓というべきなり。

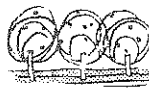
日の恩やたちまち砕く厚氷と申捨てたる源吾が精神、いまだ眼前に忘れがたし(以下略)

事の序に記すが、討入の前十三日に两国橋上で世流姿の大高に過然其角が出会い、大高の真意を解せず己が羽織を源吾に着せかけ、年の瀬や水の流れと人の身はの一句を口ずさんだのに対し大高が

あした待たるるその宝船と返したとの巷説が伝っているが、この件の真偽は判らない。世に有名な話だけにこれも大方諸賢の御教示をまつ次才である。

比叡山の僧兵と

弁慶の横顔



辻 旭 城

まえがき

比叡山は京都では単に叡山とも呼ぶ。京都市の東北に聳え京都滋賀両府県にまたがり、山頂を境としてその西半部は京都市左京区に

謹賀新年

池上作三

〒173
東京都板橋区板橋一丁目
二十一番四号
電話(961)一一二〇〇番

錦心流琵琶と詩吟
蓮水会

三浦蓮水

〒662
西宮市羽衣町七十三四
電話西宮(33)五八八七

会員一同

編入されている。山はその位置が昔の平安京の鬼門に当り、山容雄偉で有名である。山頂は教部で標高八三九・六mの四明岳と、八四八・三mの大比叡の二峰に別れている。山の東斜面には老杉古松が多いが、山頂と西斜面には殆ど樹木がなく眺望が開けて京都盆地と近江盆地を見下し、遙かに伊吹、生駒、金剛、葛城の諸山や大阪平野を望むことが出来る。

僧兵のおこり

延暦寺は四明岳の北東に在る。延暦七年（七八八年）最澄（伝教大師）が桓武天皇のために根本中堂を建てて比叡山と呼んだ。のち一乘止観院と改め更に延暦寺と改称した。昔から歴代天皇の尊崇厚く、延喜二年（九〇二年）に宇多法皇の行啓があつてから貴族の参詣登山が非常に多くなつて寺は盛大を極め、当時は寺域四方各二四kmに及び、所領も多く財政も豊かであつたところから、寺領と財産を保護するために僧兵を養つたもので、弁慶もその一人であつた。従つて始めの頃は寺が雇つた野武士や百姓であつたのが、戦が起るたびに雇兵に負けてはならぬと是等の者に加わり、僧兵とは僧と一般人の集団で、一般人も僧の姿をしていた。

悪僧兵の誕生

延暦、延喜時代の社寺は、娑婆で悪事を働きご用弁になつた者でも、他国に逃れて一旦社寺に入りて暮すとなると、社寺から突出さない限り恐ろしい検非違使も手が出せなく法外法権であつた。延暦寺の台所が豊かなこ

謹 賀 新 年	
<p>錦心流琵琶</p> <p>一水会神戸支部 一同</p> <p>〒650 神戸市生田区山本通四丁目 七ノ五 蔵本司水方 電話(22) 一七四九番</p>	<p>薩摩琵琶 正絃会員</p> <p>正派鶴吉風薩摩琵琶</p> <p>日本吟詠鶴声流正吟会</p> <p>〒420 静岡市沓谷三丁目一九三ノ二 電話(61) 九四四四番</p> <p>洋野鶴風</p>
<p>薩摩琵琶協会々長</p> <p>玄海琵琶宗家</p> <p>杉山清峰</p> <p>〒145 東京都大田区東雪谷三丁目 二六ノ六 電話(720) 二六三九番</p>	<p>薩摩琵琶 正絃会員</p> <p>赤心詩吟家元</p> <p>赤心会々長</p> <p>〒420 静岡市西草深町二二ノ二〇 電話(542) 一四七一</p> <p>森鶴堂</p>
<p>日本琵琶協会々長</p> <p>玄海琵琶宗家</p> <p>杉山清峰</p> <p>〒145 東京都大田区東雪谷三丁目 二六ノ六 電話(720) 二六三九番</p>	<p>東憲水</p> <p>小川吟水</p> <p>植田豊水</p> <p>〒537 大阪市東成区大今里一ノ八三</p>

とに目をつけた食うに困る野武士、雲助、護摩の蠅などが頭を割つてもぐり込み、京の都に出て町人達に肉や酒を強要する外、女にいたづらをするなど禁制を破る僧兵が多かつた。

弁慶の横顔

西塔武蔵坊弁慶は鎧胸の上に墨染の法衣、白い袈裟で頭を包み、千日修業の満願日に五条橋の袂で長い長刀抜き放ち、二枚齒の高下駄で牛若丸との大活劇、琵琶歌でもお馴染であるが、琵琶を聴いていても明かるく勇壮で、惚っばさがなく悪い感じを与えない。

兎きつり鐘

平家全盛の時代、比叡山と三井寺が宗教争いをしたとき、怒つた弁慶は僧兵を連れて三井寺に掛合に行つたが話が纏まらず、境内の鐘楼から高さ一・七m、重さ二五〇kgの大鐘を下ろし、山道を曳きつづつて比叡山に持帰り、大講堂に吊して撞木で打つてみたが鐘特有の音色が出ないので、腹をたてて谷へなげ捨てたところ鐘は琵琶湖に沈んでしまった。それから三八〇年の後、猿藤太が龍神から貰つたと云つて再び三井寺に返されたが、ひびが入つていて現在でも音が出なくなっている。

僧兵の滅亡

京の都を強がした僧兵であつたが、足利尊氏が背き多数の軍勢を率いて京の御所を襲つたとき、御醍醐天皇は比叡山に難を避けて僧兵に援助を求められたので、僧兵達は奮戦して天皇を護つた。戦国時代に入って元龜二年（一五七一年）に信徒である浅井、朝倉の二

謹 賀 新 年	
<p>神心流五世家元</p> <p>尚道館々長</p> <p>安倍秀風</p> <p>〒606 京都市左京区銀閣寺町二六 電話(771) 五一五九番</p>	<p>薩摩琵琶 正絃会員</p> <p>赤心詩吟家元</p> <p>赤心会々長</p> <p>〒420 静岡市西草深町二二ノ二〇 電話(542) 一四七一</p> <p>森鶴堂</p>
<p>日本琵琶協会々長</p> <p>玄海琵琶宗家</p> <p>杉山清峰</p> <p>〒145 東京都大田区東雪谷三丁目 二六ノ六 電話(720) 二六三九番</p>	<p>東憲水</p> <p>小川吟水</p> <p>植田豊水</p> <p>〒537 大阪市東成区大今里一ノ八三</p>

同盟して織田信長を討とうとし、反って信長のために寺は焼討され、僧徒千六百人のほか婦女子まで斬殺に逢い、山門の勢力は全く地に落ちた。弁慶も五條橋で牛若丸との出逢いがなかったら琵琶歌にも登場せず、T.V、映画、能、謡曲にも現われずに、一介の僧兵として信長に亡ぼされたことであろう。

切抜帳から(四五)

平井春嶺

終戦の真相(二三)

十三、天皇陛下の御聖徳日本を救う

天皇陛下の御仁愛については、既に申し上げましたが、私(追水久常氏以下同)はもう一つ付け加えて申し上げたいと思います。それは戦争犯罪人の裁判についてであります。内閣に於て戦争犯罪人の裁判を連合国の裁判によらず、日本の手で裁判したいと考え、その旨をマックアーサー元帥に要請することとして、天皇陛下に申し上げたことがあるのであります。

この奏上に対し陛下は、その裁判は自分の名に於て日本の裁判所で行うのかとおききになったのであります。旧憲法時代でありましたから、その通り天皇の御名に於て裁判官が行うことになりまして申し上げますと、天皇陛下は「自分としては国民の一人でも戦争犯罪人として裁判することは出来ない。国民は

謹賀新年

鈴木 鉦次郎

〒111 東京都北区田端町一五三
電話(82)六六六二番
振替 東京二〇〇四一番

日本琵琶振興会本部

錦川 鈴木 密水

〒343 感谷市東方二三九二
電話〇四八九(82)
一二四二二番

目にあつて居られるか、北海道には恐らくソ連軍が来ているに違いありません。どうなつて居たかという事とは全く想像もつかないこととあります。ほんとうに天皇陛下の御仁慈をしてみ感じるのであります。米軍は八月末日本に進駐して参り、九月二日に米軍艦隊ミソリ艦上に於ける調印によつて、米国の日本占領が初まりました。

失われて了います。丁度独逸のようになって了うのであります。

鈴木総理は終戦当時若し本土決戦ということになつたら、日本は事実上分裂して了う。そして国民と軍隊との間に激しい対立が起つたであろう。共産主義者たちはこの機会をのがすはずなく、一挙に日本の共産化を行つたであろう、そういうことなく兎も角日本が一本のままに居ることが出来たのは全く天皇陛下のみのおかげであるといつて居られませんでした。しかも占領ということになつても、米軍だけが日本を占領したということとは、誠に幸でありまして、日本が一本であること、一体であることはこれによって更にしつかりしたことは、誠に天皇陛下のみならずと思つてあります。(以下次号)

(次号は、講和条約とアメリカの占領政策)

謹賀新年

正派 薩摩琵琶四明会

事務所 〒604 京都市中京区河原町通三
条上ル東入 栄本天芳方
電話京都(231)七七二六

京都琵琶協会

〒602 京都市上京区今小路通七本松西
伊吹方 電話(461)六三四八番

会長

- 伊吹 正 戸倉 正 若宮 旭 田中 颯 中島 颯 中島 颯 梅原 颯 植村 颯 矢吹 颯 古谷 颯 小林 颯 木村 颯 水内 颯 美里 颯 平井 颯
- 伊吹 正 戸倉 正 若宮 旭 田中 颯 中島 颯 中島 颯 梅原 颯 植村 颯 矢吹 颯 古谷 颯 小林 颯 木村 颯 水内 颯 美里 颯 平井 颯
- 伊吹 正 戸倉 正 若宮 旭 田中 颯 中島 颯 中島 颯 梅原 颯 植村 颯 矢吹 颯 古谷 颯 小林 颯 木村 颯 水内 颯 美里 颯 平井 颯

一人残らず忠良な国民として君国につくした。戦勝国が戦勝国の名に於て勝手に裁判するのなら致し方ないが、自分の名に於ては何人も戦争犯罪人というものにあたるものはない」と仰せられ、結局このことは沙汰済みになりました。

陛下のお心持はこういうのであります。言葉で言い表わすことの出来ないありがたいさであります。

史上敗戦国の君主は必ず殺されるか、亡命して居るのが例であるのに、日本天皇のみ相変らず国家の象徴として存続し、国民斉しくこれを景仰することは不思議と申せば不思議でございますが、これ我が皇室が祖宗以来、徳をお積みになった証憑であると存じます。

斯くて鈴木内閣は十七日総辞職して東久邇内閣に引きつぎ、私は当時の自由党総裁緒方竹虎さんに書記官長を引継ぎました。

その後の国内情勢はやはり仲々さわがしく、私なども、鈴木、岡田、近衛などの重臣と共に、これを殺せというピラがまかれたりして、警視庁ではいろいろ苦心して保護してくれましたが、全体としては大きな騒ぎもなく平穩に推移しましたことは、全く陛下の御徳の然らしむる所でございます。

皆様若しこうして戦争が終らなかつたら、どうなつて居たかということを考えて下さいませ。全く天皇陛下の仰せられた通り日本人は皆死んでいたでしょう。少くとも敵の上陸予定点だった九州、関東地方の方々はどんな

謹賀新年

伊藤旭暢	〒662 西宮市二見町一ノ二
松岡旭岡	

顧問	理事	客員	休会中	支部長	顧問	事務所
桃木	松原	松原	馬場	古藤	中田	大阪府羽曳野市高鷲三丁目五ノ一〇 馬瀬橋水方 電話(54)四八四四番
木沢	岡原	瀬田	東英	藤原	中田	
耳野	冷川	瀬田	英英	藤原	中田	
水水	水水	水水	水水	水水	水水	

三味線を抱くと言えば、へんですが、琵琶を抱いて弾くと言っても、おかしくありません。たしかに、琵琶は、まるで母親が子供をひざの上に抱きかかえるような恰好で弾かれます。さらに、弾く姿がそのようであるだけではなく、弾く人の気持も、また弾き方も、同じく子供を抱き、その子供に話しかける母親に似ていると言えるのではないのでしょうか。

琵琶は、三味線とちがって弾く人が物語ります。三味線では、義太夫をはじめ歌い語る人が別に独立し、どこまでも洋奏か、さもなれば二重奏の關係の中で弾かれます。が、琵琶では、自分で語り自分で弾きます。これは単純なことのよう見えますけれども、琵琶の性格や、その物語との關係を理解する上に大へん大切なことだと思います。ここでもさきにたとえて申しました母親と子供との關係があてはまるようです。琵琶を弾いて物語るとは、その物語りを他の人々に聞かすということよりもさきに、まず母親のひざにのっているこどものようなその琵琶に聞かすと言えないのではないのでしょうか。そして、琵琶の音色も、丁度、子供が母親の話しを真似るのと同じように、そのものがたりに応えようと考

モニカ・ベータ (旭母)



雑感「琵琶について」

謹賀新年

函館琵琶協会 函館吟詠連盟	高橋蘇水	〒040 函館市大手町一六ノ一〇 電話(22)〇七五〇番
西村峡水		〒040 函館市柳町三ノ一五 電話(51)七九九九番

市来芦村	〒659 芦屋市三条町二四八 電話(22)四三三八番	高妻芦豊	〒662 西宮市大谷町七ノ一 国鉄アパト一〇三
宗家針谷錦古		日本錦古流詩吟会本部	
		高崎市岩鼻町局前二四七 電話高崎(46)二〇〇六	

られます。物語りと琵琶の音曲はこうして二人三脚のようにあるいは母音と子音のように結びついているのです。ですから、琵琶の音が物語を真似ると同様、また物語の調子も琵琶の影響を受けます。私には、物語、たとえば平家物語といった文学の形式が、つまりその言葉づかいや文体といったものが、琵琶の音律の影響を強く受けているように思われたいりません。このように物語という形式をとりながら、それは他の人に聞かす見世物的なものではなく、もともと母がわが子に聞かすといった自己充足的なものだとあえて言えると思います。つまり、琵琶を弾き物語るその姿には、なにも聞き手を探している様子は少しもありません。しかし、そうした独自のな物語りであり音曲であるからこそ、人間よりもむしろまわりの草木や石ころが耳をそばたて、更に死者の霊まで呼び出すようなものとなるのではないのでしょうか。

この意味で、琵琶法師という語があるように、琵琶は僧の説経と相似し鎮魂の性格を深くもっているようです。これと比べると三味線ははるかに人間的なもので、どこまでも生者の間の音楽を生む楽器と言わねばなりません。たしかに琵琶は深山幽谷にひそむ庵で、あるいは墓場で弾いても、深くまわりの空気と調和する音曲となるにちがいありません。そして、この鎮魂ですが、これは特定の人の霊をなぐさめるといった個人的なものではなく、もっと多くの亡者を相手としている

謹 賀 新 年

岳城流薩摩琵琶
城山会北海道支部

横山 岳 玲

〒060 札幌市南九条西三丁目一〇
電話(52)二五四六番

端水会派薩摩琵琶

柿本 錦 城

〒111 東京都台東区駒形二ノ四ノ八
電話(84)五一〇一番

謹 賀 新 年

綿心流一水会名古屋支部長
中部琵琶連盟理事長
尾州 葵 会 々 長

稲葉 葵 水

〒466 名古屋市中区和区島西町二ノ七
電話(73)四〇三四番
(73)八二八四番

岳城流薩摩琵琶

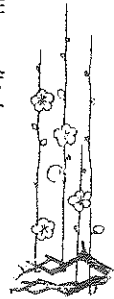
広川 岳 楓

〒060 札幌市南六条西七丁目
電話(51)八三四八番

ように思われます。琵琶が、戦記物語を語る楽器としてふさわしいのは、おそらくここに由来すると言えましょう。鏝、蹄、刀槍のひびきや、勝鬨の声、そういった勇ましい律調に戦さのすんだ戦場に鳴く虫の声、海戦のあとの静かな海に沈む夕陽、こうしたつわものどもの夢のあとを思い起こす悲しい悲しい音律が重なってくるのです。これはまさしく叙事詩の音楽と言えるでしょう。たしかに、寝を続けて早く打つことよって生まれる勇壮な響きと同時に、一方また多くの絃を一度にかきならすことよって出る引き伸ばされたような音とその余韻、ここに黄泉の国の深淵に響く鐘が、琵琶の音色の特徴と言えるでしょう。(中島旭穂門下・米人)

東都の両雄と会す

柿本 錦城



十一月二十四日「湯の香ただよう箱根路や、奥なる紅葉尋ねんと、早雲山に程近き、紅葉關の宿訪いて、溢るゝ温泉嬉しくも、心豊かに浸りける。夕風そよぐもみじ葉の、輝い面白き折柄に、誘われて来る琵琶の音は、心にくくも確かなる、女史のそれぞと思えども、訪うて腰折る本意なきに、耳そば立てて速音をば、楽しむ窓は真に急ぐ、大文字山の嶺明

謹 賀 新 年

東洋音楽学会々員
邦楽鶴鳴会

史城 普 門 義 則

〒238 横須賀市富士見町三ノ一七
電話(0468)二二一三七七五

天津旭八千代

〒536 大阪市城東区蒲生町二丁目五〇
電話(93)五一三一四番
直通(93)〇〇三七番

謹 賀 新 年

綿心流琵琶

清水 史 水

〒673 明石市和坂字割池谷七四九
ノ三 米 荘

中部芸能タイムズ社

関西主幹 大阪東区南久宝寺町二ノ五六
電話(26)六〇三三番(代)
中部総局 名古屋市中区水戸町一ノ三
電話(532)三八八八番(代)

謹 賀 新 年

綿心流一水会秋田支部

星野 雄 水

〒011 秋田市土崎港中央四丁目
九番二十六号
電話(45)〇三二二番

竹下 翠 風

〒166 東京都杉並区下高井戸
電話(303)五八二二番
(303)五八九四番

り、薄れゆくまま秋灯、早や庭石に映りけり。翌朝食堂で声を掛けられたるは正しく望月

顔で言問えば、「今日小田原より楽器が登り来る」との事、御一行は五、六名らしいが、背向いたるお顔でわからぬが、浅野晴風氏だ

けは横顔で判明した。そんな訳で、昨夕は庵主押川女史を招じて筑前を聴かれた次才がわ

かった。私達は老夫婦と娘夫婦の四人だが、十時頃押川女史から「湯本まで車で下るが同

車せぬか」と勧められたけれども、我々は早雲山の道了様にお詣りする予定があったため、好意を謝して午前中に出発したが、望月氏の

一行は楽器が揃いたら賑やかなことかな。それはさて置き、望月氏の、望月の両氏は、現今の東都琵琶界に於ける重鎮とも申すべき人で、私の最も敬意を表している方である。由来琵琶

維新前後 (下)

桂 旭 采

「そんな坊主よ、それがこの寺の骨和向だ、長州とは元から深い仲だ。」

村田新八は入つてに聞いた話を部下に語った。

「それで砲撃は？」

「やる、やむを得ん」

「空砲を？」

「いや、実弾だ」

「滴水和尚との約束は？」

「仕様んなか、これが合戦のならいはい」

新八の命令一下、実弾が天龍寺に打込まれた。

「馬鹿もんツ、官軍の名のもとに約束に背き、後醍醐天皇の尊厳を祭る寺を焼くとはい

き、滴水和尚は龍王院から駆けつけ、新八の胸ぐらをつかんだが最早あとの祭りだった。砲

声はいんいんと嵐山にこだまし、四辺は修羅場と化した。真夏の炎天下、火はみるみる燃

えさかり、法堂、客殿、大小庫裡、書院、講堂、後醍醐帝を祭る多宝院など、山内悉く

が真っ赤な火柱をたてていた。

「おぬし、ろくな死にかたはせんぞツ」

滴水和尚は新八の胸ぐらに突進すと、燃え盛る山内に駆けこみ、後醍醐帝の尊牌と、開

山夢想国師の木像をかついで小倉山の林の中

に安座した。又これとは別に薩軍の本陣に出

て人々の胸を打ったとも云えようが、人々の

心の中に抱く御所への尊敬の念が、君側の奸

を払おうとして破れた気の毒な長州となり

同情的な見解をとったものであろう。誰が一

番天子様に対して忠義なのかを京の人々は

理屈でなく肌で感じ取っていたのである。

当時東本願寺に陣どっていた徳川慶喜はこ

れは天朝を慮りたげた幕府の後見役である。会

津一その手下である。薩摩一権謀術数のかた

まりである。間抜けな戦いを仕掛け、京を大

火のルツボとした長州だが、人々はそれほど

憎めなかった。それは御所尊崇とつながる奇

妙な感情であった。

盛会を極めた

三浦蓮水演奏会

恒例による西宮市民文化祭に参加の蓮水会

才八回「琵琶と詩吟詩舞の会」は、菊花薫る

十一月二日午後一時から絶好の秋日和に恵ま

れて華々しく開催された。この日を待ちかね

た聴衆は会場西宮市立夙川公民館松下ホール

に早くから続々詰めかけて開演定刻既に会場

の半ばを埋め、二時前後には超満員の大盛況

を示し、司会馬瀬槍水氏開演の挨拶に続き曲

目ごとに明快な解説を附して左記順演が展開

に安座した。又これとは別に薩軍の本陣に出

向き、砲撃の中止を談じ込んだが義堂の苦心

も水の泡だった。

師、もともと勤王の志厚く奇節を抱く、

長人の多くと相織る。近世禅林僧宝殿にこう

記してあるように、長州藩士とよく交際し、

勤皇思想を吹込んでいた義堂和尚のこと、公

武合体派の薩軍や、佐幕派の会津勢に寺を焼

かれては断腸の思いだったに違いない。義堂

はこの乱の後病氣になり、滴水和尚に後事を

托して五十一才でこの世を去った。尚、村田

新八は後年西南の役で西郷軍に投じ、官軍の

銃火にまみれて惨死した。

十九日早朝からの蛤御門の戦による火災は

一向に衰えず、長州屋敷を中心に御池通りに

かけて二十一日夜まで燃え続けた。この戦で

流れたままは御所の中にも落ち、当時十三才の

皇太子(明治天皇)は気絶遊ばされ、傍らに

年	新	賀	謹
〒466 名古屋市中区和向山町二 ノ十七 電話(751)七九七四番	鈴木叫水	伊藤金次郎 〒085 釧路市北大通五ノ六 電話(22)二四七三番	伊藤馨水 〒184 東京都小金井市本町一丁 目八ノ五電話小金井 〇四二三(81)三三四四
		国慶会 北会員一尊水	日本国風流詩吟総師範 一水会北海道東支部顧問
			同錦心流一水会々々員 武絃会事務所

年	新	賀	謹
〒176 東京都練馬区豊玉北五ノ 一一 表の友社	鈴木蒼士	井上兼子 〒612 京都市伏見区深草瓦町 電話(641)四八二〇番	馬瀬槍水 〒583 大阪府羽曳野市高鷺三ノ 五ノ一〇 電話(54)四八四四番
		岡部錦蝶 〒550 大阪市西区京町堀五ノ一一 大坂市西區電話(37)八二二 電話(37)八二二一四番	薩摩琵琶錦水会 正絃会・四明会・さつき会々員

吟 詩吟十一題 山崎童子外 詩舞平安の都
一原瑞鳳外 琵琶青葉の笛 吉山吟紅 (中学
三年初舞台) 城山一竹内蓮洲 (中依披露)
母常盤一木村吟麗 (大学二年初舞台) 詩吟
三題 一前尾純子外 琵琶舞浮舟 三浦蓮水。
舞青柳芳栄 (池上作三作詞、絶世の美女源氏
物語の浮舟が恋路に迷い悶える様を琵琶の呼
吸がよく合致して大喝采) 詩吟四題 一樽垣
澄香外 詩舞石童丸 一家元青柳芳枝、武政敦
子 (朗々たる吟と尺八が家元の絶妙な舞で詩
情を豊かにし仏道戒律の厳しさと肉身の愛情
を如実に示し聴衆皆涙す) 琵琶本能寺 三
浦吟光 (初舞台) 絃蓮水 湖水乗切 反町
紫水 舟弁慶 井上碧水 挨拶 西宮市長。
蓮水後援会長 (代松野紫雲)、祝電披露 (五
十余通) 琵琶菊水の旗 三浦蓮水 (松野紫雲
作詞、既にNHK全国放送の実績を持つ女史
十八番曲の一でその熱演は完全に堂を圧した)
会主に花東贈呈 大阪青年会議所吉谷 殿
劍舞大楠公 吟原瑞松、舞原義人 琵琶白虎
隊 一神戸久内舟水 五条橋 京都矢吹旭美津
詩吟漢江 三浦光子の外詩吟二題 琵琶小松
の操 (一) 京都平井春嶺 琵琶塚 一神戸蔵本司
水 秋風五丈原 大阪馬瀬槍水 (関西琵琶界
を代表する右三氏の演奏は神に迫って有終の
美を飾り万雷の拍手が堂を動がした) 一以上
敬称略。以上で全演奏を終って蔵本司水氏閉
会の挨拶を述べ記念撮影、続いて別棟日本座敷に
出演者、後援会その他の関係者が集り本演奏会の
成功を祝して高らかに乾盃し散会した。

十一月十六日 (日)



錦心流琵琶詩吟教授
篁水会々長
田中 篁 水

金沢市天神町二丁目六ノ
電話 (0762) (31) 五三五八

謹賀新年

中島 真水

〒605 京都市東山区松原通大和太
路東入坊矢町五十一番
電話 (54) 九〇九一 一八

昨日来の雨がカラリと晴れて気温は上昇、
予定の集合場所に旭徳会の旗を手にした役員
の案内で迎への車に次々と乗車、晩秋の紅葉
色濃い紙屋川の上流有明別館に二階と階下と
に別れて祝宴が催された。二階は五十余人、
下は二十四人。自己紹介のあと司会者が「会
員モニカベータ嬢の雅号披露とその御両親が
アメリカより来朝された歓迎会を兼ねてこの
催しを企画した」旨挨拶すれば、ベータ嬢の
父君はノーベル賞保持の学者に似ず非常に温
厚で深く頭を下げ、自己の履歴を述べて謝辞
を披露し、愛嬢モニカ旭母が美しい振袖姿の
和装で頬を紅潮させながら之を通訳した後、
来賓伊吹正陽、古谷寛水両巨頭をはじめ、京
都公認会計士の元老中村喜之助先生その他一
同に酌をして愛嬢を呈した。それから琵琶演
奏に移り原田嬢の晋公、森田の白虎隊、モニ
カ旭母の栗津の露に続いて伊吹先生の城山、
古谷先生の吉野懐古の妙技を拝聴して七時半
演了、この日の中島先生の琵琶の音色は一入
冴えて一同の胸に迫った。そしてこの珍しい
催しがいつ迄も忘れられないようにモニカ御
両親と堅く握手を交わし、中島先生は涙を浮
かべつつ日米親善を兼ねた今夕の幕を閉じた
のであった。(京都中島旭徳門下)

大阪琵琶同好会の 十一月二日織田信
浄院秋祭に奉納長由緒の滋賀県安土
町浄院大祭に琵琶詩吟奉納会を催して一泊
帰阪、行楽日和の連休で大勢の参詣者が聴取
した。奉納者秋田楓葉、坪井旭濤、中村旭正
矢野旭信、辻旭城、島津旭抱、石橋旭嶺諸氏
「日本の宴」 日本民主同志会主催、文
に琵琶伴奏 都省、京都府、市その他の
後援で十一月十五日昼夜二回京都祇園歌舞練
場に於て首記が開催され無形文化財救済正吟
井上八千代を始め当代一流の宗家、家元等に

よる各種邦楽舞踊に伍して「日本の黎明、明
治維新」に山崎旭萃、矢吹旭美津、三木旭照
菅旭香、大滝旭雄五氏、「坂本龍馬の最期」
に井坂旭良氏がそれぞれ舞踊伴奏をして好評
を博した(入場料昼夜各二千円)

京都琵琶協会

①十一月二十三日(日)午後

冷気をもとせせず二、三の事故者を除いて
一同元気に集合し例の通り夕方まで各自の熱
演が続いたあと食事を共にしながら十二月の
忘年会、一月新年会その他の協議をして八時
半散会した。(出席者) 戸倉旭嶺、若宮旭登
田中鶴水、中島真水、中島旭穂、矢吹華水、
古谷寛水、小林旭光、木村維水、美登里進水
水内媿水、平井春嶺、植村粟水諸氏。

月例茶話会

市内徳雲寺で開催、晩秋の
冷気をもとせせず二、三の事故者を除いて
一同元気に集合し例の通り夕方まで各自の熱
演が続いたあと食事を共にしながら十二月の
忘年会、一月新年会その他の協議をして八時
半散会した。(出席者) 戸倉旭嶺、若宮旭登
田中鶴水、中島真水、中島旭穂、矢吹華水、
古谷寛水、小林旭光、木村維水、美登里進水
水内媿水、平井春嶺、植村粟水諸氏。

日本琵琶振興会

十一月二十三日(日)午後

十一月例会 一時から東京新宿駅前歌
舞練場に於て開催、当日は天候に恵まれ来会
者の足どりも軽く定刻十六名を数え直ちに研
究演奏に移り野村旭穂、井坂旭良、望月暉江
木下旭龍、川喜多旭龍、山崎光水、坂本錦道

鈴木密水、山崎旭匠、山本旭盛、加藤斐水、
村木桜柳、水藤錦櫻、松本諸水、鈴木鶴歌、
柴田詔水、長野泰水、安藤敬水、井上雅翔
西郷天風(外に詩吟朗詠三番)以上の諸氏が
研究発表演奏を行った。当日来会者の色別は
錦心流19、筑前10、にしき4、薩摩4、詩吟
関係4、作詞者2、計46名であった。

名古屋邦楽大会

十一月三十日名古屋

民芸術祭の主記が名古屋邦楽協会、市教育委
員会の共催で開催され各種邦楽の競演に伍し
秋風故郷の山 熊手旭辰・絃坂田旭弘、あゝ
豊川女子挺身隊 菅沼響水、別れの盃 橋本
旭蘭。絃岩見旭香、木村重成 奥村響水以上
四曲を披露して万丈の気を吐いた。

日本芸能の近代公演と

十二月二日東京

素人伎能コンクール 新宿朝日生命ホー
ルで日本伝統芸能同好会主催、東京都後援で
主記が開催され各派邦楽が披露されたが琵琶
は他の邦楽を抜いて浅野晴風社中山下清楓個
人賞一位、若林晴慶同二位を獲得の榮譽に輝
き琵琶奏のため大いに気を吐いた。

各種芸能大会に

十二月二日東京新

鶯風、晴風両氏出演 宿コマ劇場で両氏琵
琶演奏、千七百の聴衆から絶大な好評を受け
た。(有料)

予告

新春琵琶大演奏会 一月九日十一時東京
三越劇場(主催日本琵琶楽協会)

琵琶放送

一月十三日午後二時NHK才
二ラジオ「武蔵野」吉水錦翁、「頼朝の娘
水藤錦櫻両氏

京都琵琶協会一月定例茶話会

一月十七

日(日)午後二時京都市電西大路大将軍電停前
一筋上ル西入料亭玉姫殿(電話461九八〇一)
夕刻まで茶話会のと新年宴会開催
△：浅野晴風会新年例会 一月十八日(日)正午
東京新宿朝日生命地下和室
△：東憲水第73回義士祭演奏会 一月二十五
日(日)大阪天神橋朝陽会館、東京佐藤采水、
名古屋福島澤水両氏来賓出演
△：研精会各流派琵琶演奏会 二月七日三時
〜七時、東京才一証券ホール

居

梅原旭壽文史 京都府乙訓郡西向日町
鶏冠井山端二番地(電話〇七五931一六九一番)

報

栗本シゲ女史(薩摩琵琶四明会会長栗本
天芳氏令嬢) 老衰のため十二月七日逝去、
享年七十九才、謹んで哀悼の意を表します。
(京都市東山区山科御陵東原西町四一)